

決算補足説明資料

2024年度 3-11月期 業績概要

注意事項

- 2024年度より、これまでシステムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行するセグメント区分の見直しを行っています。これにより、2024年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。なお、2023年度の数値についても変更後の情報にて表示しています。（P21参照）
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2024年3月1日～2024年11月30日)

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算オンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

まずはじめに、資料表紙に記載していますが、今年度よりセグメント区分の見直しを行っています。

これにより、2024年度・2023年度の数値は、変更後の情報に組み替えた上で算出しています。詳細につきましては21ページをご参照ください。

それでは、2024年度 3-11月期の業績概要についてご説明いたします。

1ページにお進みください。

➤ 2024年度 3-11月期 実績

- ➔ **売上収益** … 前年同期比▲7.2%
 - ・高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ、モーションコントロールを中心に減収
- ➔ **営業利益** … 前年同期比▲26.3%
 - ・売上減少に伴う影響を大きく受け、間接費は抑制したものの減益
- ➔ **税引前利益** … 前年同期比+30.1%
親会社の所有者に帰属する四半期利益 … 前年同期比+30.7%
 - ・持分法適用関連会社の一部の株式譲渡により増益
- ➔ **第3四半期 受注** … 前年同期比▲6%・前四半期比▲5%
 - ・納期の短期化による一時的な発注調整などにより減少

➤ 2024年度 通期 見通し

- ・韓国における半導体関連の設備投資の調整影響や、米国大統領選挙に伴う設備投資の一時的な様子見の動きにより受注が想定を下回ったことから、通期業績見通しを下方修正
- ・足元の為替状況を考慮し24年度4Qの平均為替レートを一部円安方向に見直し
- ・24年4月5日公表の配当金予想（一株当たり年間配当68円）は据え置き

こちらは、当決算におけるサマリーです。

売上収益は、高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ、モーションコントロールを中心に減収となりました。

営業利益については、売上減少に伴う影響を大きく受け、間接費は抑制したものの、減益となりました。

その一方、税引前利益、四半期利益は、持分法適用会社の一部の株式譲渡に伴い、増益となりました。

第3四半期の受注は、モーションコントロールを中心に納期の短期化が進んだことで、一時的な発注調整などが発生した影響により、前年同期比、前四半期比ともに減少しました。

24年度通期見通しについては、韓国における半導体関連の設備投資の調整影響や、米国大統領選挙に伴う設備投資の一時的な様子見の動きにより、受注が想定を下回ったことから、下方修正いたします。

なお、24年度第4四半期の想定為替レートにつきましては、一部の通貨を円安方向に見直しています。

また、配当金予想については24年4月5日公表の「1株当たり年間配当68円」を据え置きます。

それでは、5ページにお進みください。

1. 2024年度 3-11月期 連結業績

- 2024年度 3-11月期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2024年度 3Qにおける取り組み

2. 2024年度 通期 連結業績見通し

- 2024年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析

3. 参考資料

- セグメント区分変更による組替表示
- 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ PMモータ など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット など



システム
エンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム など



その他

- ・ 物流サービス など

1. 2024年度 3-11月期 連結業績

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・ 高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ減収
- ・ 営業利益は売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け、間接費を抑制したものの減益
- ・ 税引前利益、四半期利益は持分法適用関連会社の一部の株式譲渡により増益

	2024年度	2023年度	前 年 同 期 比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
売 上 収 益	3,937億円	4,243億円	▲306億円	▲7.2%
営 業 利 益	343億円	465億円	▲122億円	▲26.3%
税 引 前 利 益	630億円	484億円	+146億円	+30.1%
親会社の所有者に帰属する 四 半 期 利 益	455億円	348億円	+107億円	+30.7%

当期の経営環境は、半導体市場において需要の回復が見られたほか、自動車市場においても地域ごとの強弱はあるものの設備投資は底堅く推移しました。一方で、欧州・中国では設備投資需要が総じて低調に推移しました。

このような中、当社グループの業績については、売上収益・営業利益ともに前年同期に比べ減少した一方、税引前利益・四半期利益は増益となりました。

売上収益は前年同期比7.2%減の3,937億円、営業利益は26.3%減の343億円、税引前利益は30.1%増の630億円、四半期利益は30.7%増の455億円です。

それでは、次の6ページにお進みください。

2024年度 3-11月期 実績（セグメント別）

- ・モーションコントロールは、ACサーボを中心に売上減の影響を大きく受け減益
- ・ロボットは、若干の増収も生産稼働率の低下などにより減益
- ・システムエンジニアリングは、主力事業の売上拡大と事業構造改革の効果により大幅な増益

	2024年度 3-11月期 実績		2023年度 3-11月期 実績		前年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
売 上 収 益	3,937		4,243		▲306	▲7.2%
モーションコントロール	1,783		2,045		▲262	▲12.8%
ロボット	1,705		1,669		+36	+2.1%
システムエンジニアリング	278		337		▲59	▲17.6%
その他	171		192		▲21	▲10.9%
営 業 利 益	343	8.7%	465	11.0%	▲122	▲26.3%
モーションコントロール	160	9.0%	286	14.0%	▲126	▲44.0%
ロボット	161	9.5%	186	11.1%	▲24	▲13.2%
システムエンジニアリング	30	10.9%	16	4.7%	+15	+92.5%
その他	10	6.1%	1	0.4%	+10	-
消去または全社	▲19	-	▲22	-	+4	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、ACサーボモータ・コントローラ事業を中心に売上減少の影響を大きく受け、減益となりました。

ロボットは、若干の増収となりましたが、生産稼働率の低下などにより減益となりました。

システムエンジニアリングは、鉄鋼プラント関連をはじめとする主力事業の売上拡大に加え、事業構造改革の効果により大幅な増益となっています。

なお、“売上収益における為替の影響”は全社でプラス172億円でした。

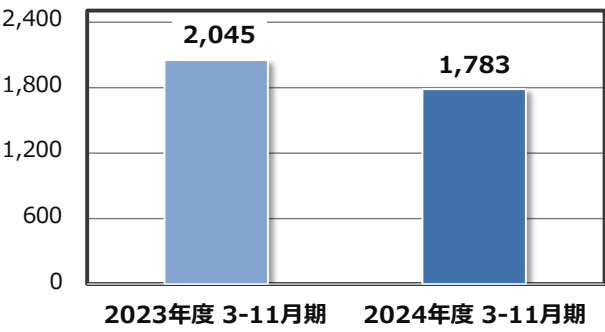
内訳として、モーションコントロールでプラス84億円、
ロボットで同じくプラス84億円、
システムエンジニアリングでプラス3億円
その他でプラス2億円です。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の7ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



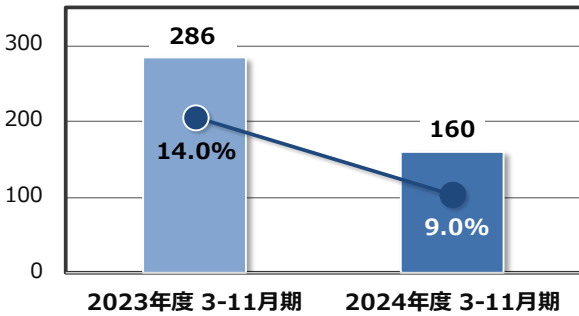
【売上収益】

- ACサーボは米州・アジアで半導体向けが緩やかに回復も日本・中国における市場の回復遅延により減収
- インバータは太陽光発電用パワーコンディショナの販売が堅調に推移したものの、高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ減収

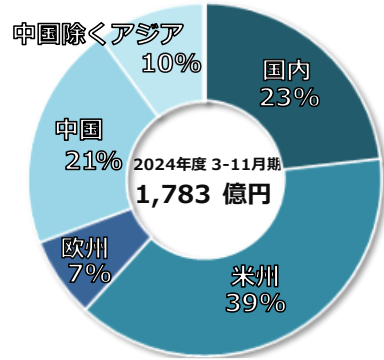
【営業利益】

- 経費の抑制や付加価値の改善がプラスに寄与も、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比12.8%減の1,783億円、
営業利益は44.0%減の160億円となりました。

なお、24年度 3-11月期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、
ACサーボが47%、インバータが53%です。

ACサーボは、米州・アジアを中心に半導体向けが緩やかに回復しましたが、
日本・中国における市場の回復遅延などの影響を受け、売上収益は減少しました。

インバータは、太陽光発電用パワーコンディショナの販売が堅調に推移したものの、
高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ、売上収益は減少しました。

利益面については、経費の抑制や付加価値の改善がプラスに寄与したものの、
売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益となりました。

これらの結果、営業利益率は9.0%となりました。

ご参考として、24年度 3-11月期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

ACサーボは、

国内26%、米州29%、欧州9%、中国26%、中国除くアジア10%です。

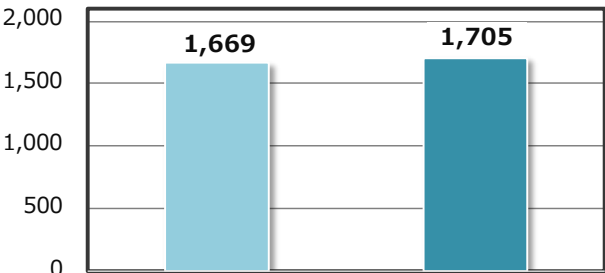
インバータは、

国内21%、米州47%、欧州6%、中国16%、中国除くアジア10%です。

それでは、次の8ページにお進みください。

主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



2023年度 3-11月期 2024年度 3-11月期

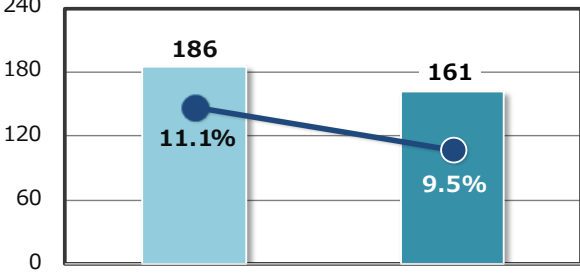
【売上収益】

- ・ 日本と欧州で自動車関連の売上が増加
- ・ 半導体ウェハ搬送ロボットの販売が堅調に推移
- ・ 一般産業分野における設備投資の需要は伸び悩むも、若干の増収

【営業利益】

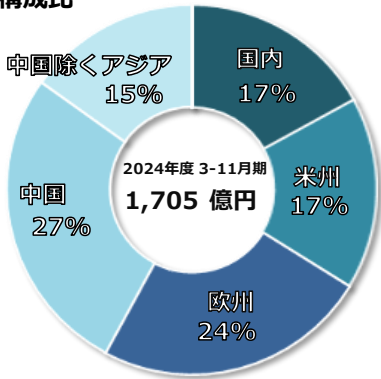
- ・ 生産稼働率の低下などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



2023年度 3-11月期 2024年度 3-11月期

所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比2.1%増の1,705億円、
営業利益は、13.2%減の161億円となりました。

日本と欧州を中心に自動車関連の売上が増加しました。

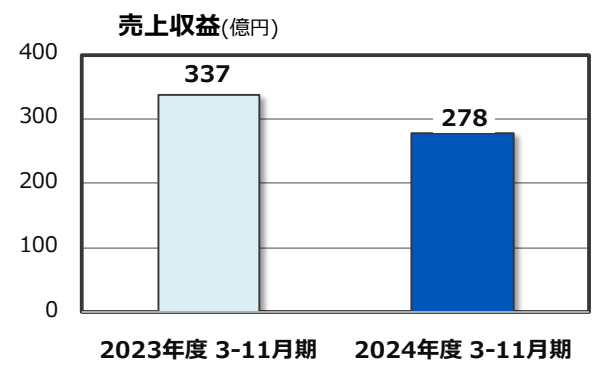
また、半導体市場向けウェハ搬送ロボットの販売も堅調に推移しましたが、
一般産業分野における設備投資の需要は伸び悩みました。

これらの結果、売上収益は前年同期比で若干の増加となりました。

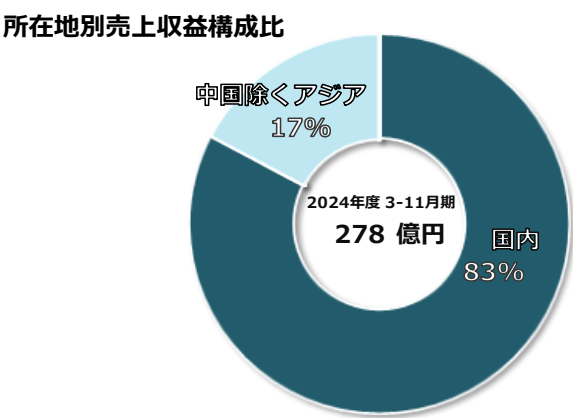
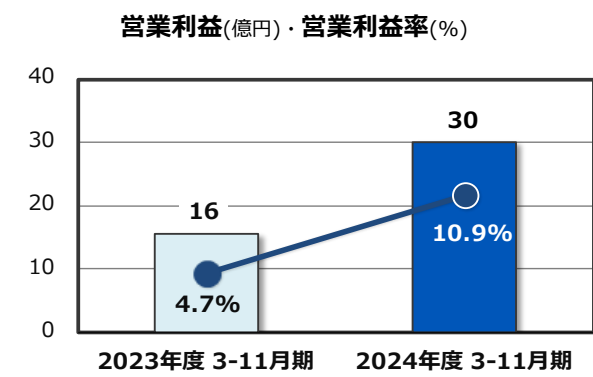
利益面については、生産稼働率の低下などにより減益となり、
営業利益率は9.5%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング



- 【売上収益】**
- 主力の鉄鋼プラントや港湾クレーン、社会システム向けの販売が拡大
 - 前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により減収
- 【営業利益】**
- 主力事業の売上増加に加え、事業構造改革の効果により大幅な増益



システムエンジニアリングの状況です。

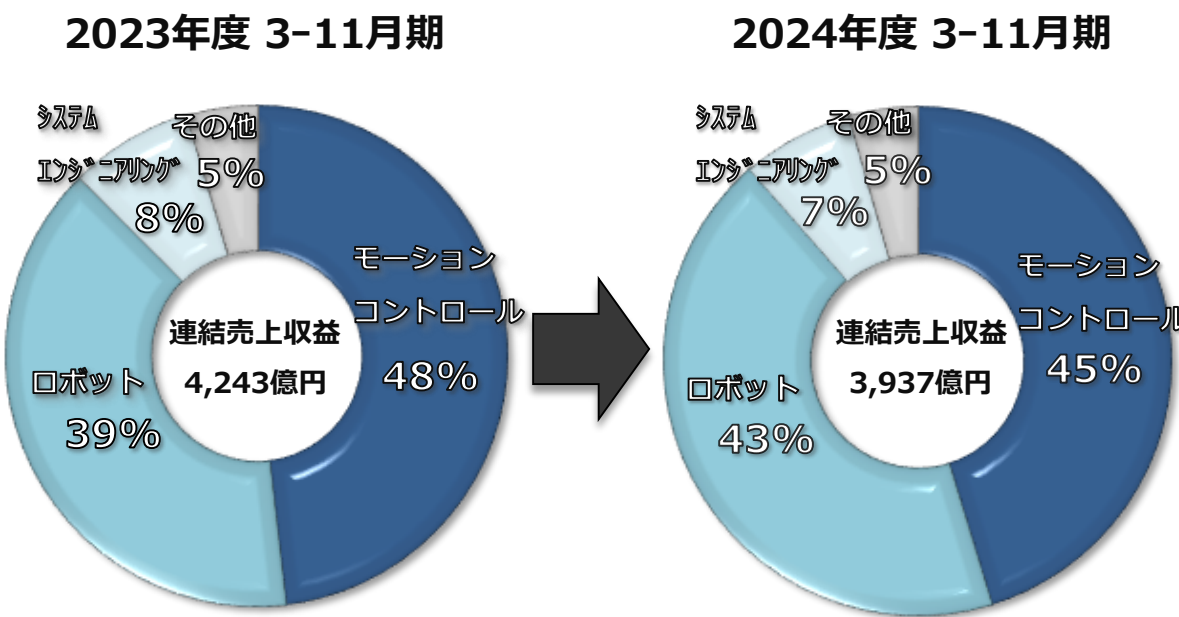
売上収益は、前年同期比17.6%減の278億円、
営業利益は、92.5%増の30億円となりました。

主力の鉄鋼プラントや港湾クレーン、社会システム向けの販売が拡大しましたが、
前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により、
売上収益は前年同期比で減少しました。

利益面については、主力事業の売上増加に加え、事業構造改革の効果により
大幅な増益となりました。

これらの結果、営業利益率は大幅に改善し、10.9%となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期に対し、モーションコントロールが3ポイント減少した一方、ロボットが4ポイント増加しました。

これらの結果、モーションコントロールは45%、ロボットは43%、システムエンジニアリングは7%の構成比となりました。

それでは、次の11ページにお進みください。

所在地別売上収益

・ 中国除くアジア・米州は増収も、他の地域は減収

(単位：億円)	2024年度	2023年度	前年同 期 比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
売上収益	3,937	4,243	▲306	▲7.2%
国内	1,076	1,187	▲111	▲9.4%
海外	2,861	3,056	▲195	▲6.4%
米州	977	977	+0	+0.0%
欧州	543	693	▲150	▲21.7%
中国	855	959	▲104	▲10.8%
中国除くアジア	486	427	+59	+13.8%

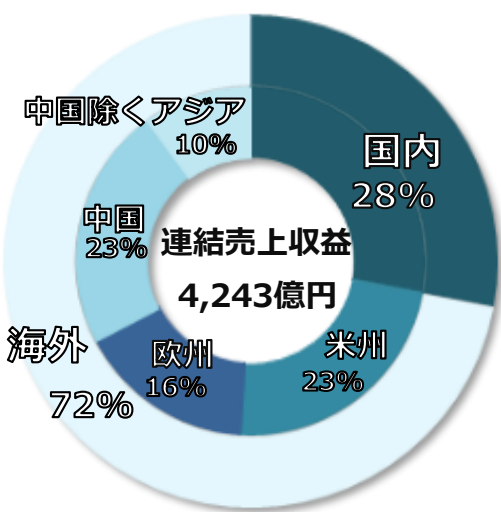
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。

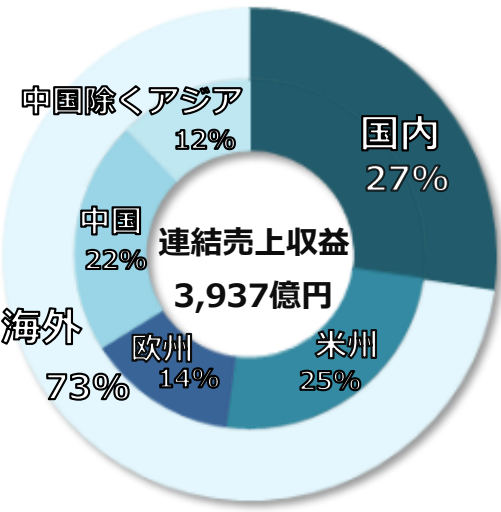
中国除くアジアと米州は増収でしたが、ほかの地域は減収となりました。

それでは、次の12ページにお進みください。

2023年度 3-11月期



2024年度 3-11月期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益 構成比は、
海外が前年同期から1ポイント増加の73%に、国内が1ポイント減少の27%となりました。

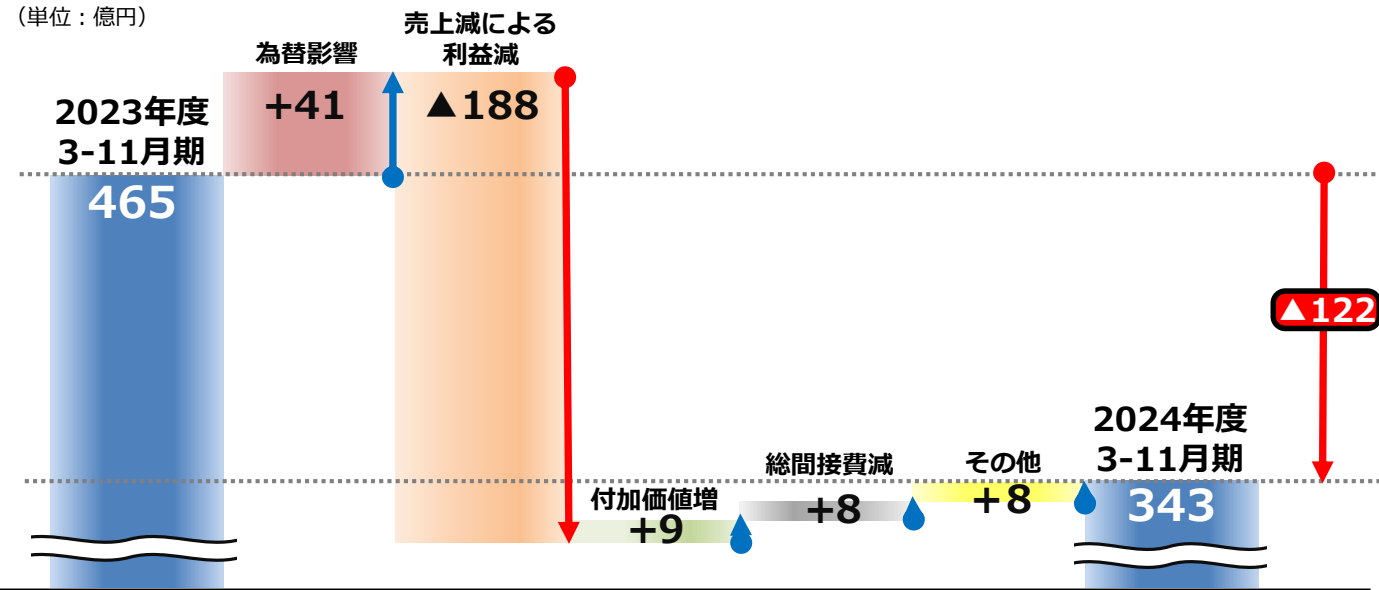
海外の内訳として、中国が1ポイント、欧州が2ポイントそれぞれ減少した一方で、
米州と中国除くアジアがともに2ポイント増加しました。

海外においては、米州の構成比が増加し、売上収益が一番大きな地域となっています。

それでは、次の13ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2023年度 3-11月期 → 2024年度 3-11月期）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 17	▲ 181	+ 16	+ 24	▲ 1
ロボット	+ 24	▲ 24	▲ 10	▲ 14	+ 0
システムエンジニアリング	+ 0	+ 23	▲ 5	▲ 3	▲ 1
その他	+ 0	▲ 5	+ 8	+ 1	+ 10

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の465億円から122億円減少し、343億円となりました。

為替による影響は、ドルをはじめ各通貨が円安に推移し、プラス41億円。

売上減による利益減は、主にモーションコントロールの減少が影響し、マイナス188億円。

付加価値の増加はプラス9億円。

主な内訳として、モーションコントロールの新製品切り替え効果や、部品の内製化効果が含まれています。

総間接費の減少による影響はプラス8億円。

賃金改善などで労務費が増加した一方、開発費の見直しや、外注費の削減を進めました。

最後の「その他」はプラス8億円です。

これには、前年度に一時的に発生した固定資産の除却損がなくなった影響や、開発計画に伴う北九州市への一部土地の売却を行った影響が含まれています。

それでは、次の14ページにお進みください。

2024年度3Qの取組み(1)

“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出 開発力の強化

- NVIDIA AI Summit Japan(2024年11月)において「MOTOMAN NEXT」のデモ機を展示しAIを活用した高速ピック&プレイスを訴求



NVIDIA AI Summit Japanにて
展示したMOTOMAN NEXTのデモ機

生産力の強化

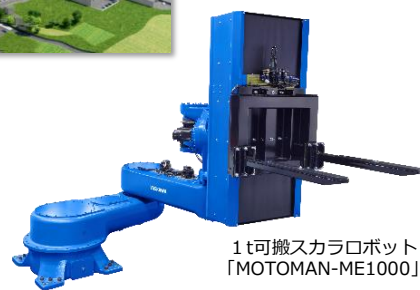
- 安川オートメーション・ドライブ(システムエンジニアリング事業 子会社)がグリーンアジア国際戦略総合特区^{*1}の法人に指定
- システムエンジニアリング事業の強化を目的とした福岡県・南行橋事業所新設の起工式を実施



南行橋事業所
完成イメージ図

販売力の強化

- EV車体への大容量バッテリー組み付けに対応した業界初の1t可搬スカロロボット「MOTOMAN-ME1000」を販売開始。省エネ性に優れた製品として2024年度省エネ大賞^{*2}を受賞



1t可搬スカロロボット
「MOTOMAN-ME1000」

^{*1} 国から指定を受けた「国際戦略総合特区」の一つで、福岡県と北九州市、福岡市が共同で推進するもの。

安川オートメーション・ドライブは今後一定の条件を満たす製品開発を行った場合において、税制上の特例措置を受けることが可能となる。

^{*2} 一般財団法人省エネルギーセンターが国内の企業・自治体・教育機関等の優れた省エネ推進事例や、省エネ性に優れた製品、ビジネスモデルを選定し、年に1度表彰。

2024年度3Qにおける取り組みです。

開発面においては、2024年11月に開催されたNVIDIA AI Summit Japanにおいて、MOTOMAN NEXTの可能性を訴求しました。

生産面においては、システムエンジニアリング事業を担う安川オートメーションドライブが、グリーンアジア国際戦略総合特区の法人に指定されました。

また、システムエンジニアリング事業の強化を目的とした福岡県 南行橋事業所の起工式を実施しています。
新設する事業所は2026年度より稼働を開始する予定です。

販売力の強化においては、業界初となる1トン可搬のスカロロボット“MOTOMAN-ME1000”を販売開始しました。この製品は、一般財団法人省エネルギーセンターが主催する2024年度省エネ大賞を受賞しています。

それでは次の15ページへお進み下さい。

販売力の強化

- 自動車車体の軽量化を実現する摩擦撹拌接合に適用可能なロボット「MOTOMAN-GG250」を販売開始
- セットアップや試運転時間の短縮とスムーズな加減速による乗り心地向上を実現したエレベーター専用インバータ「LA700」を販売開始
- YRMコントローラ「YRM1010」が製造現場における作業効率や生産性向上に貢献する製品として「第21回/2024年超モノづくり部品大賞」奨励賞を受賞



摩擦撹拌接合に
適用可能なロボット
「MOTOMAN-GG250」



エレベーター専用
インバータ「LA700」



YRMコントローラ「YRM1010」

デジタル経営の推進

- 当社製品の稼働状況から適切なタイミングで設備の更新・メンテナンスをプロアクティブにお客さまへ提案するサービス活動を強化

販売力強化の続きですが、現在の自動車業界では、燃費効率向上のために車体を軽量化する設計が進んでおり、このニーズに対応する新しい接合方法である『摩擦撹拌接合』に適用可能なロボット“MOTOMAN-GG250”の販売を開始しました。

また、スムーズな加減速による乗り心地向上を実現したエレベーター専用のインバータ“LA700”を販売開始しています。

既に市場投入しています、YRMコントローラの最新機種である“YRM1010”が、製造現場における作業効率や生産性向上に貢献する製品として日刊工業新聞社「第21回 2024年 超モノづくり部品大賞」の「奨励賞」を受賞しました。

デジタル経営の推進においては、当社製品、特にロボットやパワコンの使用場所や用途、稼働状況を登録し、営業部門と共有する取り組みを強化しています。

データを元に、適切なタイミングで設備の更新やメンテナンスを提案することが可能になり、お客さまから好評をいただいています。

それでは17ページへお進み下さい。

2. 2024年度 通期 連結業績見通し

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

2024年度 通期 見通し

・韓国における半導体関連の設備投資の調整影響や、米国大統領選挙に伴う設備投資の一時的な様子見の動きにより、受注が想定を下回ったことから通期見通し(2024年10月4日公表)を下方に修正

	2024年度 見通し	2023年度 実績	前年同 期 比		2024年度 前回見通し※
			増減額	増減率	
売上収益	5,480億円	5,757億円	▲277億円	▲4.8%	5,530億円
営業利益	580億円	662億円	▲82億円	▲12.4%	640億円
税引前利益	875億円	691億円	+184億円	+26.7%	898億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	630億円	507億円	+123億円	+24.3%	640億円

※2024年10月4日 FY24 2Q決算発表時

2024年度 通期の業績見通しです。

韓国における半導体関連の設備投資の調整影響や、米国大統領選挙に伴う設備投資の一時的な様子見の動きにより、受注が想定を下回ったことから、2024年10月4日に公表の予想を、下方に修正いたします。

売上収益は5,530億円から5,480億円に、
営業利益は640億円から580億円に、
税引前利益は898億円から875億円に、
当期利益は640億円から630億円に、
それぞれ修正いたします。

なお、24年度第4四半期における想定為替レートについては、米ドル、ユーロ、中国人民元を2024年4月5日公表の想定から見直します。

ドルは145円から155円、ユーロは155円から160円、元は20円から21.5円といたします。

韓国ウォンは変更せず、1ウォン 0.11円を据え置きます。

続いて、次の18ページにお進みください。

2024年度 通期 見通し（セグメント別）

(単位：億円)	2024年度		2023年度		前年同期比		2024年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し※	利益率
売上収益	5,480		5,757		▲277	▲4.8%	5,530	
モーションコントロール	2,479		2,694		▲215	▲8.0%	2,492	
ロボット	2,380		2,347		+33	+1.4%	2,405	
システムエンジニアリング	386		461		▲75	▲16.2%	385	
その他	235		255		▲20	▲7.8%	248	
営業利益	580	10.6%	662	11.5%	▲82	▲12.4%	640	11.6%
モーションコントロール	291	11.8%	390	14.5%	▲98	▲25.3%	317	12.7%
ロボット	259	10.9%	251	10.7%	+8	+3.1%	291	12.1%
システムエンジニアリング	46	11.9%	49	10.5%	▲3	▲5.2%	44	11.5%
その他	17	7.4%	4	1.6%	+13	+317.5%	19	7.7%
消去または全社	▲34	-	▲32	-	▲2	-	▲32	-

※ 2024年10月4日 FY24 2Q決算発表時

セグメント別の通期見通しです。

足元の需要動向等を考慮し、次の通り修正します。

モーションコントロールの売上収益は、前回予想の2,492億円から2,479億円に、
営業利益は、317億円から291億円に、

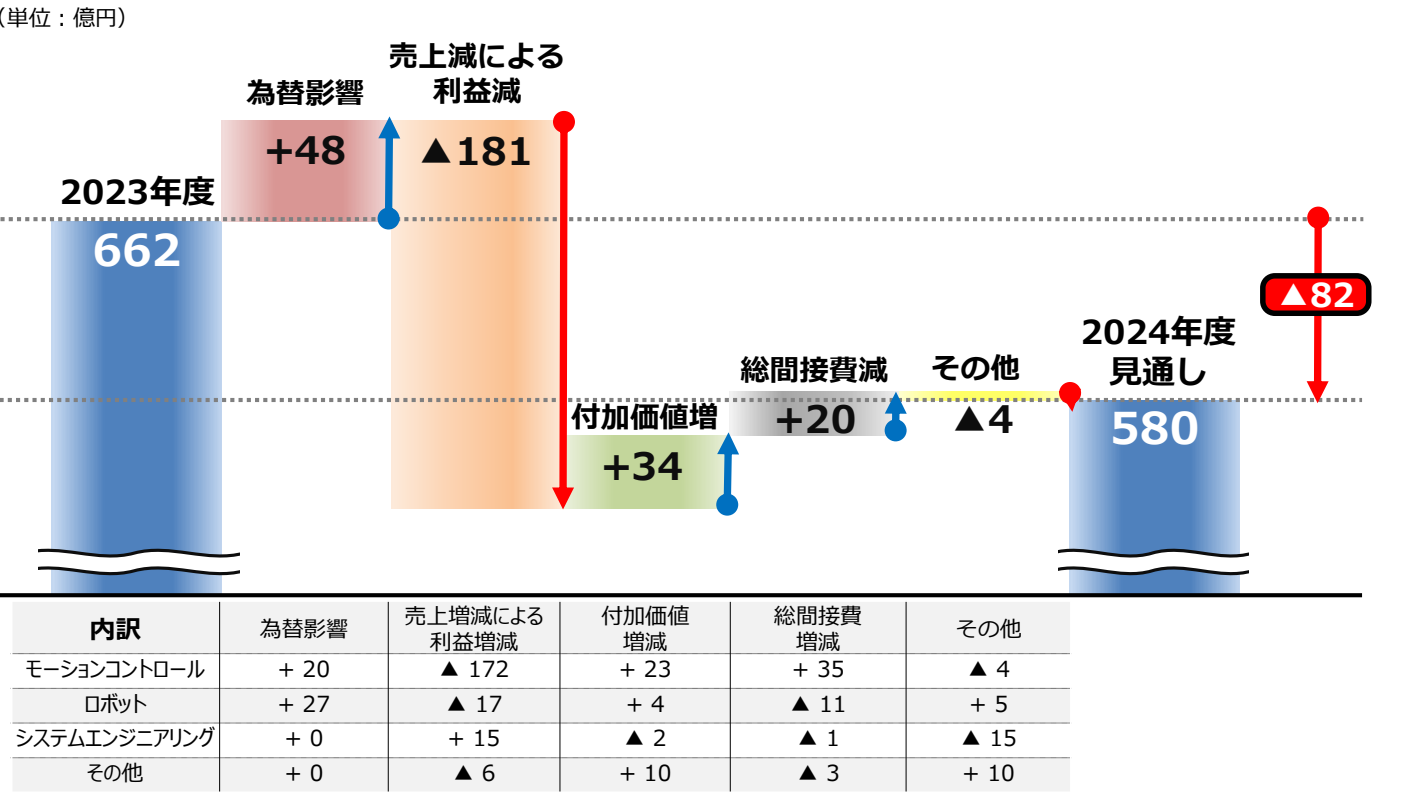
ロボットの売上収益は、2,405億円から2,380億円に、
営業利益は、291億円から259億円に、

システムエンジニアリングの売上収益は、385億円から386億円に、
営業利益は、44億円から46億円に、

それぞれ修正します。

それでは、次の19ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2023年度 → 2024年度見通し）



通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2024年度の営業利益は、前年度の662億円から82億円減少の580億円を計画します。

為替による影響は、引き続き円安の影響を想定しプラス48億円。

売上減による利益減はマイナス181億円。

付加価値の増加はプラス34億円。
主な内訳として、モーションコントロールの新製品切り替え効果や、モーションコントロールとロボットにおける部品の内製化効果などが含まれています。

総間接費の減少は、プラス20億円。
賃金改善による労務費の増加を織り込みますが、中国・欧州を中心に活動費を抑制します。

最後の「その他」はマイナス4億円。
子会社の株式売却益が無くなった影響や欧州再編に係るコスト、そして、中国での補助金収入などを織り込んでいます。

それでは、27ページにお進みください。

3. 参考資料

セグメント区分変更による組替表示（2023年度実績）

- 2024年度より従来システムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行するセグメント区分の見直しを実施
- 2024年度・2023年度の数値は、セグメント変更後の情報にて表示

2023年度（セグメント変更後）								変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
売上高	1,425	1,465	2,890	1,354	1,513	2,867	5,757	-
モーションコントロール	716	691	1,408	638	649	1,287	2,694	+94
ロボット	528	596	1,124	546	677	1,223	2,347	-
システムエンジニアリング	123	108	231	107	123	230	461	▲94
その他	58	70	128	63	63	127	255	-
営業利益	164	166	331	135	197	332	662	-
モーションコントロール	98	104	202	84	104	188	390	+8
ロボット	62	68	130	56	66	122	251	-
システムエンジニアリング	10	4	14	2	33	35	49	▲8
その他	▲0	0	0	1	3	4	4	-
消去または全社	▲6	▲10	▲15	▲7	▲9	▲16	▲32	-

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (計画)
設備投資額	276.1	378.6	450.0
減価償却費	196.7	208.0	220.0
研究開発投資	187.8	212.5	240.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2022年度 (実績)				2023年度 (実績)				2024年度 (想定)			
	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期
対 米ドル	134.5	132.9	138.6	134.1	142.1	146.7	147.9	143.2	152.2	155.0	152.1	152.9
対 ユーロ	139.1	142.0	143.0	139.8	153.7	159.4	159.3	155.1	165.1	160.0	161.0	163.8
対 元	19.80	19.33	19.77	19.68	19.89	20.42	20.44	20.02	21.12	21.50	21.20	21.22
対 ウォン	0.103	0.105	0.104	0.103	0.108	0.111	0.112	0.109	0.112	0.110	0.110	0.111

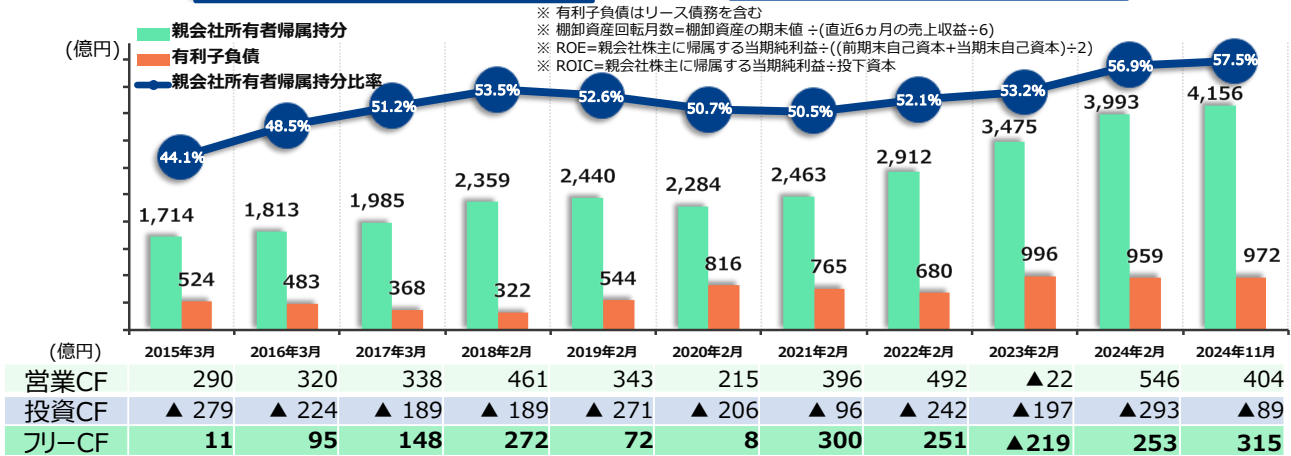
為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2024年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.9	2.3
ユーロ	7.5	1.1
元	11.4	2.8
ウォン	3.6	1.7

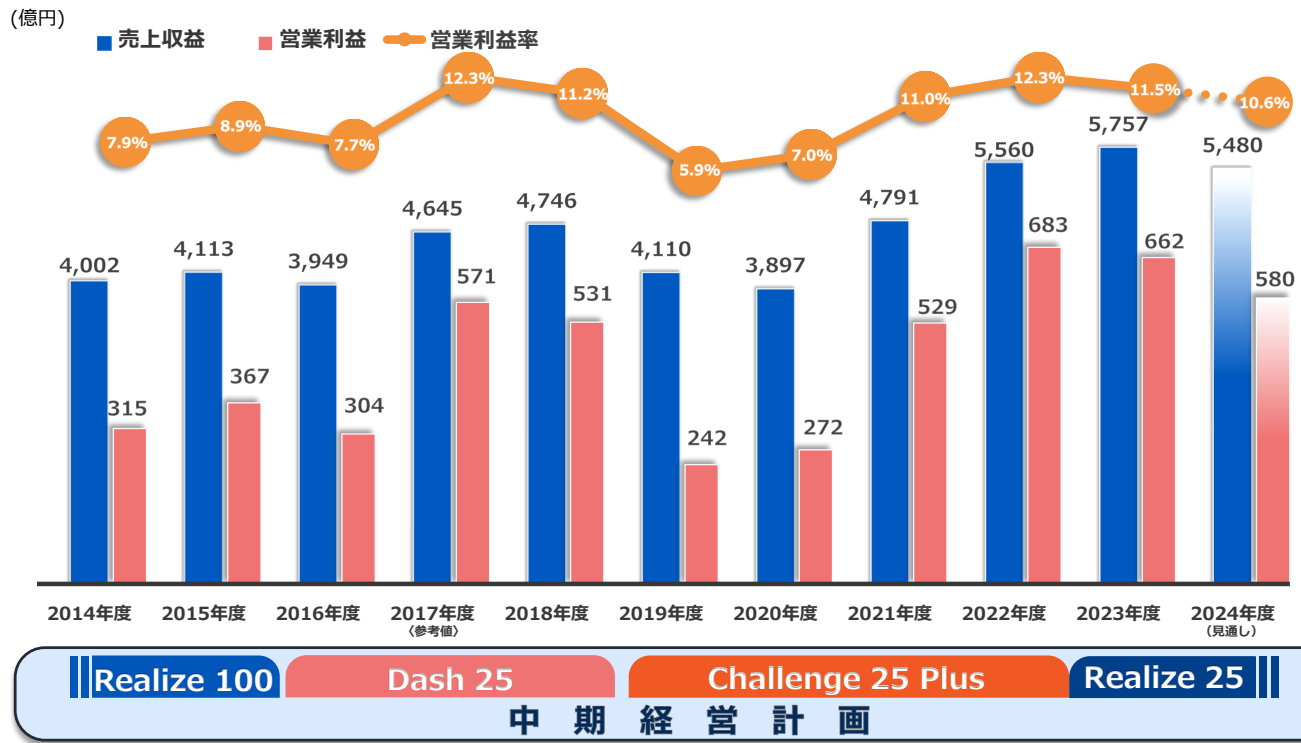
B / S 構造の推移

2024年2月29日時点		2024年11月30日時点	
➢ 親会社所有者帰属持分比率	56.9%	➢ 親会社所有者帰属持分比率	57.5%
➢ 親会社所有者帰属持分	3,993億円	➢ 親会社所有者帰属持分	4,156億円
➢ 有利子負債	959億円	➢ 有利子負債	972億円
(現金及び現金同等物)	403億円	(現金及び現金同等物)	436億円
➢ D/Eレシオ	0.24	➢ D/Eレシオ	0.23
(ネットD/Eレシオ)	0.14	(ネットD/Eレシオ)	0.13
➢ 棚卸資産	2,079億円	➢ 棚卸資産	2,166億円
(回転月数)	(4.4ヶ月)	(回転月数)	(5.0ヶ月)
➢ ROE	13.6%		
➢ ROIC	11.8%		



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

売上収益・営業利益推移（2014年度～2024年度見通し）

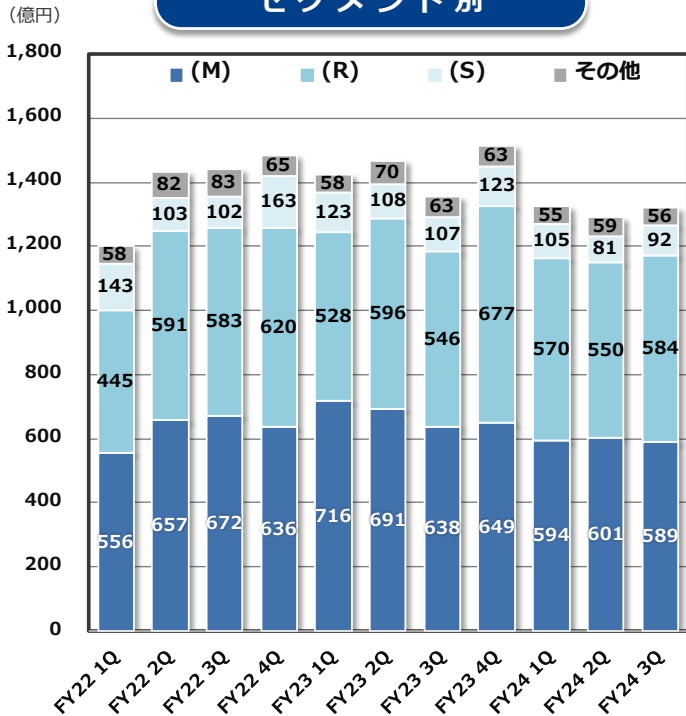


[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

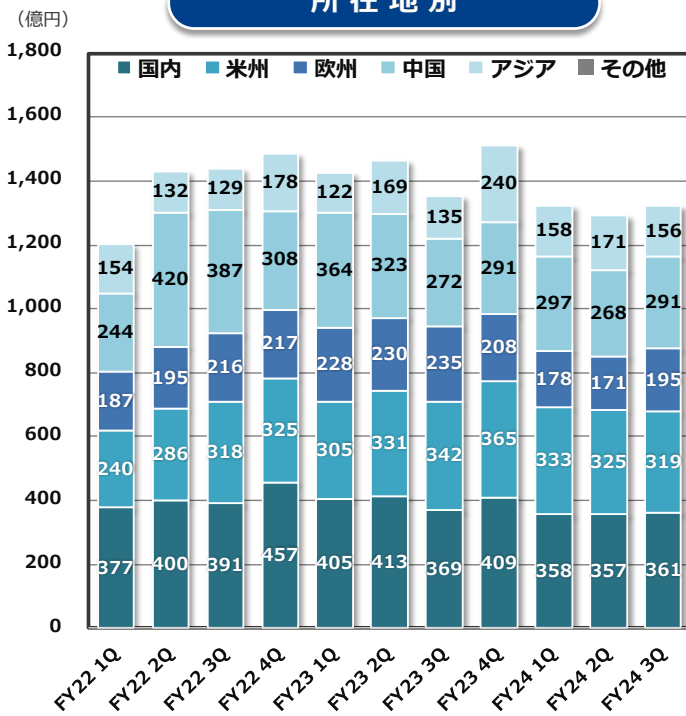
<スキップ>

四半期売上収益推移

セグメント別



所在地別



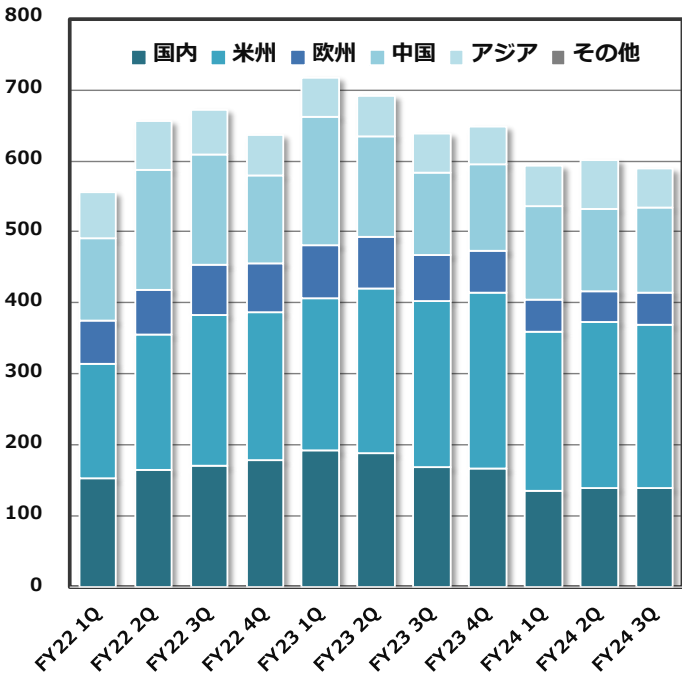
[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング
[注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

<スキップ>

四半期売上収益推移

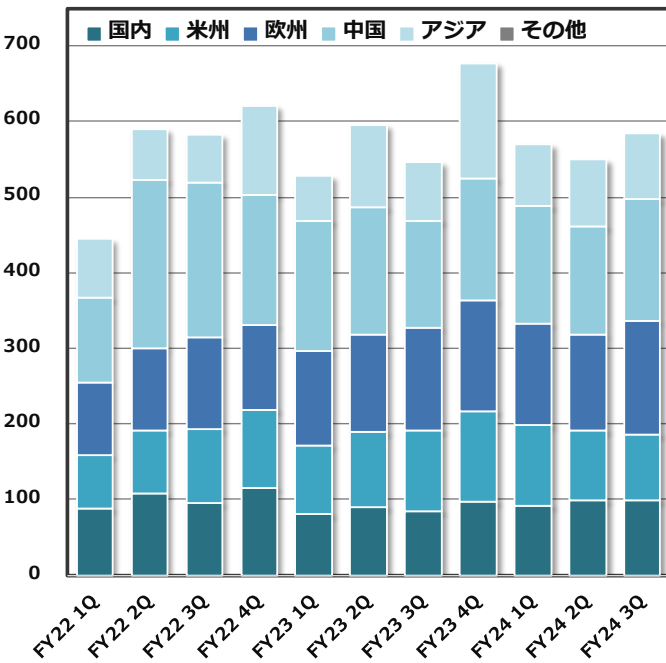
モーションコントロール

(億円)



ロボット

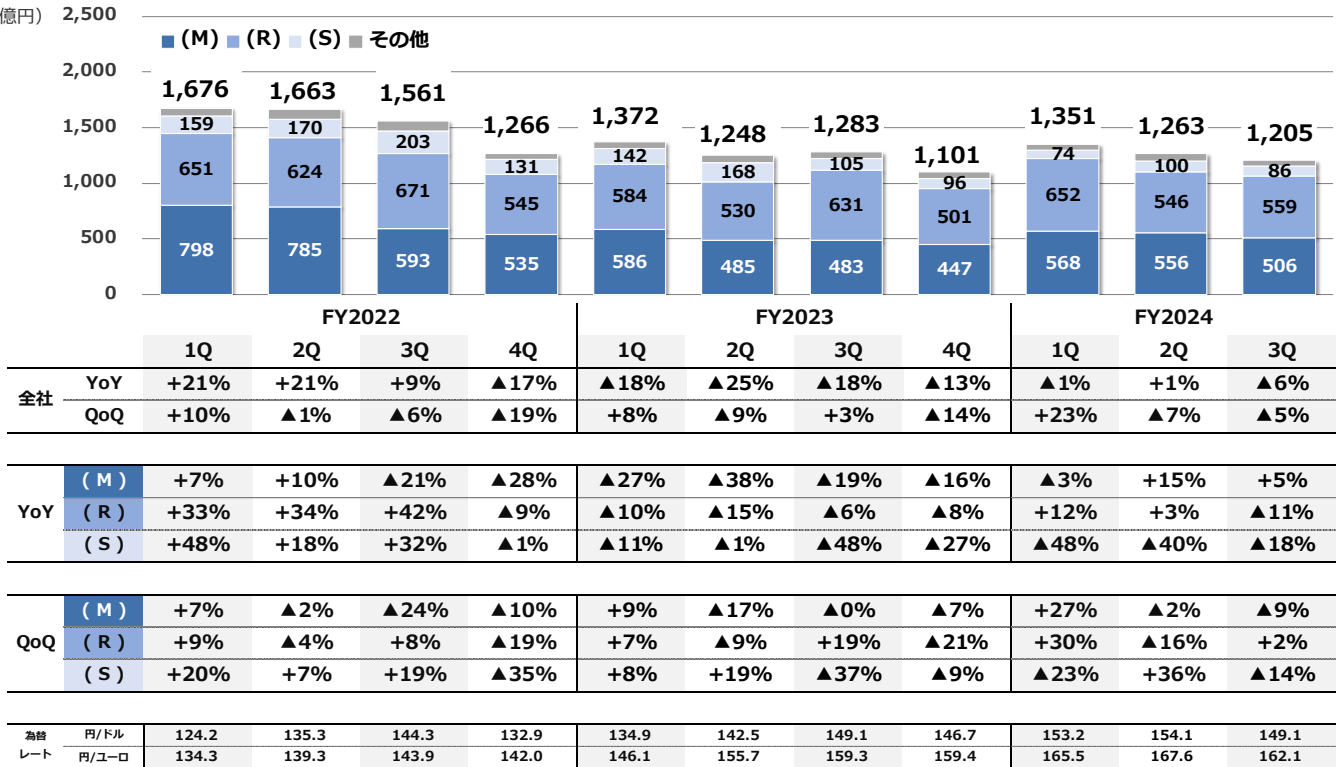
(億円)



[注] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

<スキップ>

四半期受注推移（セグメント別） ※為替は期中平均レートを使用



[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング
[注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

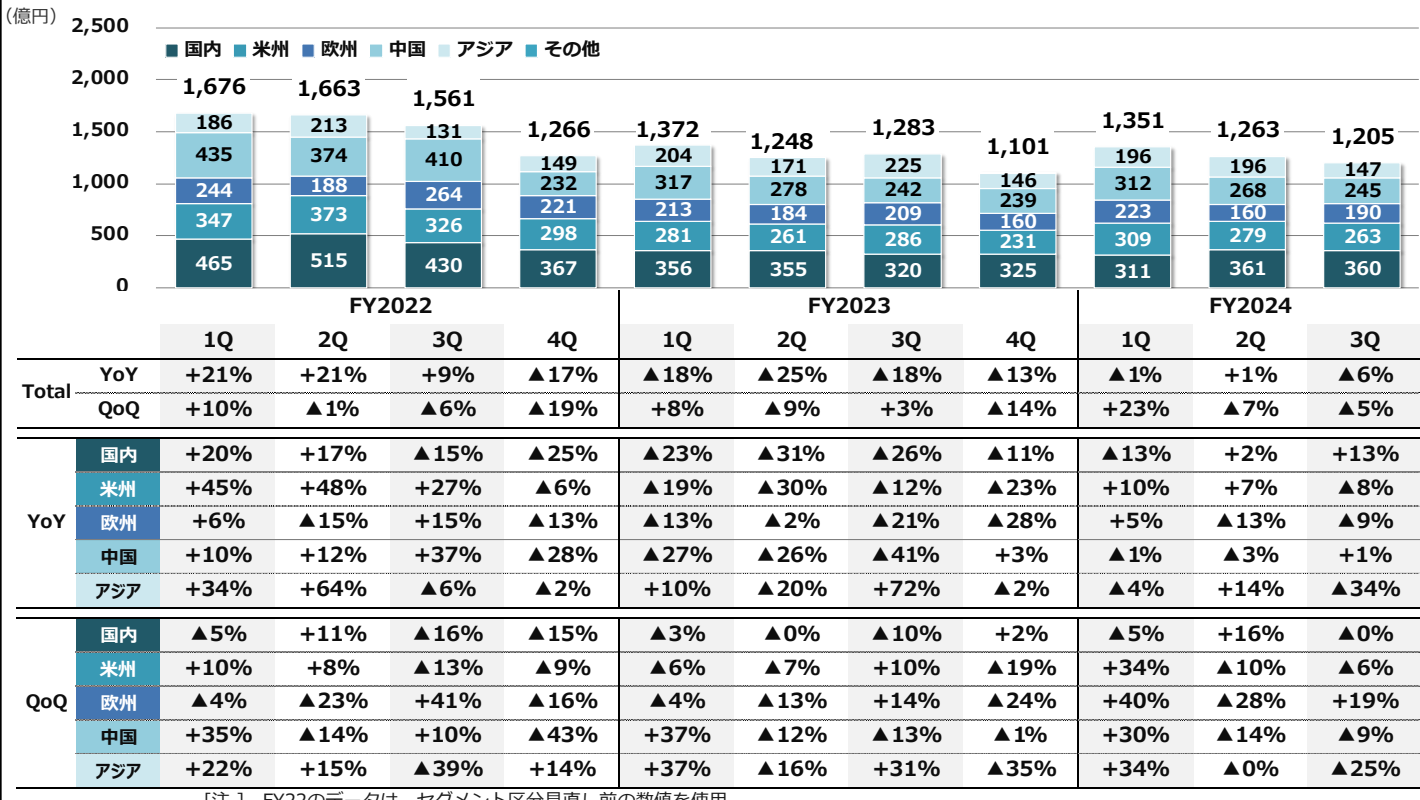
参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、
今年度 第3四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

- ACサーボのYoYは全体で+29%です。
内訳は、国内+52%、米州+43%、欧州+13%、中国+10%、その他アジア▲2%です。
- QoQは全体で▲6%です。
内訳は、国内+13%、米州▲13%、欧州▲3%、中国+6%、その他アジア▲49%です。
- インバータのYoYは全体で▲14%です。
内訳は、国内+10%、米州▲26%、欧州+21%、中国▲16%、その他アジア▲14%です。
- QoQは全体で▲13%です。
内訳は、国内+13%、米州▲2%、欧州+4%、中国▲35%、その他アジア▲46%です。
- ロボットのYoYは全体で▲11%です。
内訳は、国内+19%、米州▲12%、欧州▲2%、中国+4%、その他アジア▲46%です。
- QoQは全体で+2%です。
内訳は、国内+0%、米州▲2%、欧州+25%、中国▲7%、その他アジア▲6%です。

それでは、次の28ページにお進みください。

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用



所在地別の受注推移です。
数字はご覧の通りです。

なお、最後になりますが、配当につきましては、期初発表時の内容から変更はありません。

中間配当は1株につき34円、期末配当についても1株につき34円を予定しています。

これにより、年間の配当は、前年度から4円増配となる68円を予定しています。

以上をもちまして、2024年度 3-11月期の業績概要の説明を終わります。
ご清聴いただき、ありがとうございました。

YASKAWA

© 2025 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>